

信州やまなみ国スポ・全障スポ

松本市実行委員会設立趣意書

国民スポーツ大会は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの推進と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにする目的として開催されます。

長野県においては、昭和 53 年に「日本の屋根に手をつなぐ」をスローガンに第 33 回「やまびこ国体」が開催されました。松本市では、スケート、陸上競技、庭球、自転車、弓道、高校野球（硬式）の会場地として、全国のトップ選手による熱い戦いが繰り広げられ、市民のスポーツへの関心を高めるとともに、松本市のスポーツ文化に大きな影響を与えました。

また、全国障害者スポーツ大会は、障がいのある選手が競技等を通じ、スポーツの楽しさを体験するとともに、国民の障がいに対する理解を深め、障がいのある人の社会参加の推進に寄与することを目的として開催されます。

松本市においても、全ての人が暮らしやすい地域共生社会の実現を目指す中、健常者と障がいのある人が同じ目線に立ち、日常的にスポーツを楽しめる環境を整えることが求められています。

このような中、令和 10 年に「行こう。それぞれの頂へ。」をスローガンに「信州やまなみ国スポ・全障スポ」が開催されることは、市民一人ひとりが松本市での開催競技をはじめとした様々なスポーツに親しみ、スポーツを通じた交流の輪を広げるきっかけとなり、スポーツ都市としての発展並びに地域共生社会の実現につながるものであります。

また、豊かな自然、歴史と伝統に培われた文化など、松本市の魅力を全国に向けて発信し、「松本ファン」を増やす機会でもあります。

さらには、両大会の開催に向け、「豊かさと幸せに挑み続ける三ガク都」を合言葉とした市民協働による取組みを展開することにより、市全体の連帯感が高まり、松本のシンカにつながると確信しています。

このような極めて意義のある両大会を成功に導くために、市民・各種関係団体・行政からなる「信州やまなみ国スポ・全障スポ松本市実行委員会」を設立し、市民の総力を結集して所期の目的を達成しようとするものです。